

作品担当者

山下 和哉

株式会社建築デザイン研究所（伊勢支部）

事務所・店舗 | 津市香良洲町

こうなん薬局

構造 | 木造

階数 | 地上 2 階

敷地面積 | 715.1 m²

建築面積 | 152.74 m²

延べ面積 | 177.73 m²

竣工 | 令和 6 年 10 月



外 観（全体）



軒 下



陶芸教室



外 観（陶芸教室）



調剤薬局カウンター



陶芸教室

作品コンセプト

今回の計画では、薬局に併設する陶芸教室の設計が求められた。

オーナーが目指す、「生きがいと健康づくりの拠点」を建築にも反映していくことから計画を始めていった。

空間構成としては、「既存の調剤薬局を拡張する待合室」「調剤薬局と地続きに併設する陶芸教室」「それぞれを管理できるスタッフ専用の室」を設けたがその反面、陶芸教室の利用者、薬局の利用者、計画地裏手のクリニックから訪れる患者が交差することで、動線が複雑になることが予想された。

そのため増築する建物は 3 方向からの利用者を受け入れられる大屋根を計画し、それぞれの動線の流れを整理し自然に導かれるように考えた。また利用者を受け入れる軒としての機能だけでなく、香良洲町における新たなシンボルとして、地域に馴染みながらも象徴的な存在となることを目指している。

大屋根の形状は、この地域に多く見られる三角屋根をベースに寄棟屋根を半分に切り出し、それぞれ屋根の勾配を変化させた。これにより道路面の屋根は緩勾配となり、地域の低層の建物が並ぶ風景の中で、シンボルになりつつも大屋根のボリュームをできるだけ小さくしている。増築した薬局、陶芸教室の内部は、高さや規模感をそれぞれ変化させている。

待合室は幅や高さを同程度の規模で設計することで、常連の地域住民が普段と同じ感覚で違和感なく利用できるようにしている。一方で陶芸教室は大屋根によりできた吹抜けを設け、高い天井とし奥行きのある空間としている。

これは陶芸活動における創造的な思考促進を期待するとともに、地域住民が陶芸を目的に数名が大きく抜けた空間で集い、語らう風景を想像し計画した。

仕上材の選定には調剤薬局、陶芸教室ともに漆喰や木を多用している。

木材の手触りやぬくもりを空間の各所で感じられることができ、漆喰は調湿性や抗菌性という薬局へ期待できる効果に加え、不燃性や防臭性にも優れているため陶芸教室への効果も期待できる。